

鳥取の歴史再発見!

特集

日本遺産の旅

地域の歴史・文化的魅力を発信するために創設された「日本遺産」。県内でもこれまで2件が認定され、注目されています。県内の日本遺産となった舞台にはどんな奥深い歴史の世界が広がっているのか、その物語の旅へご案内します。

▶日本遺産とは?

日本遺産とは平成27年度からスタートした文化庁ほか国の省庁連携の事業です。地域の歴史的の魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、有形・無形のような文化財等を総合的に観光資源として活用して地域振興を図ろうとするものです。



平成
27年度
認定

三徳山・三朝温泉「六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」



古くから修験道の聖地だった三徳山

1 修験道の聖地・三徳山

三徳山は古くから知られる修験道の聖地。その誕生には、修験道の開祖・役小角が「神仏のゆかりのあるところへ落としてください」と三枚の蓮の花びらを空に投げ上げると、一枚が三徳山に舞い降りたという伝説があります。その後、三徳山は平安時代に慈覚大師円仁が山内に建立した三仏寺によって天台密教の道場として栄えました。

2 六根清浄と行者道

三徳山では、まず、三朝温泉の湯に入って身を清めた翌日から、山内の寺院での座禅、読経、写経、精進料理などで己の欲や迷いを断ち切ります。さらに修験道では山奥の洞窟や岩屋で寝食し修行を行いました。これを「目・耳・鼻・舌・身・意」を清める「六根清浄」といいます。厳しい修行の一端は、険しい道りを経て断崖絶壁に建つ「国宝投入堂」に至る「行者道」に垣間見ることができます。



国宝投入堂



今も残る行者道



六感を癒やす三朝温泉

3 心と体が洗われる場所

六根清浄を終えて山を下り、三朝温泉の湯を飲み、つかり、湯煙に身を置くことで六感を癒やすことを「六感治癒」といいます。三徳山で「六根」を清め、三朝温泉で「六感」を癒やす一連の作法は、人と自然が融合する日本独自の自然観を表したものです。三徳山と三朝温泉は、心と体を洗うことで誰もが持つ清らかさが蘇る場所なのです。

発掘調査の結果から

領主との関わりも考えられる中世の三仏寺

三仏寺の往時の姿は、いくつかの地点で行われている発掘調査からもうかがえます。「行者屋敷跡」と伝えられてきた場所ではピット（柱跡）等が確認され、16世紀後半の中国製の輸入陶磁器などが出土しています。これらの建物跡や出土品から、この時期に領主として寺領を安堵した南条氏との関わりが考えられます。



三徳山行者屋敷跡から出土した陶磁器（青花）

平成
28年度
認定

大山山麓

「地蔵信仰が育んだ日本最大の牛馬市」

1 「神の山」に生まれた地蔵様への信仰

大山は『出雲国風土記』の国引き神話に「伯耆国なる火神岳」として登場する、文献にみえる日本最古の神山。中腹の大山寺にまつられる地蔵菩薩は、山頂の池に現れたとされ、水を恵み、現世の苦しきから万物を救うと信じられた仏様です。大山独特の地蔵信仰は、鎌倉時代以降、「大山信仰」として山陰・山陽諸国へと広がりました。



古くから神の山だった大山。
低温の日には雲海に浮かぶ幻想的な姿が見られます



2 牛馬信仰が牛馬市へと発展

平安時代に大山寺の高僧、基好上人が、牛馬安全を祈願する守り札を配るとともに、山の中腹での牛馬の放牧を奨励すると、農耕に欠かせない牛馬への加護を願う人々が牛馬を引き連れて大山寺に集まるようになりました。鎌倉時代以降、次第に牛馬の交換や売買が盛んに行われ、やがて市に発展したと伝わっています。

3 牛馬市は国内最大の規模へ

江戸時代中頃には、大山寺が牛馬市の経営に積極的に乗り出しました。市は大山寺境内の下にある「博労座」で開かれるようになり、やがて日本三大牛馬市の一つと称されるほど隆盛を極めました。牛馬市は大山寺の手を離れた明治維新以降も地域の経済を支え、明治中頃には年間1万頭以上の牛馬が商われる国内最大の牛馬市にまで発展しました。



昭和6年の大山牛馬市の様子。
各地から集まった牛馬と人でにぎわいました



大山道の一つ「川床道」



大神山神社奥宮

4 今も息づく大山道と大山信仰の面影

大山寺から放射状にのびる大山道沿いには、往時をしのばせる石畳道や宿場の町並みに加え、山中の池から水を汲み清めとする「もひとり神事」や、田植え前に大神山神社奥宮で豊作を祈る「山入れ」の行事など大山信仰に由来する行事、風習が残されています。ここには人々が「大山のおかげ」と感謝の念を捧げながら大山を仰ぎ見る暮らしが息づいています。

発掘調査の結果から

中世には守護大名級の経済力を持っていた大山寺

大山寺は近年の僧坊跡の分布調査や発掘調査の結果、その広がりには約55ヘクタールに及んでいたことが分かりました。また、出土品には所有者の権威を示す物として重宝された高級な陶磁器が含まれることから、中世の最盛期には、守護大名に匹敵する経済力や宗教権力を持っていたことがうかがえます。



大山寺僧坊跡の遺構